

地方部における高齢者の買い物行動様式選択に関する一考察

徳島大学 学生会員 ○莊司匡岐 和歌山工業高等専門学校 正会員 伊勢昇
徳島大学 非会員 森一也

1. はじめに

高度経済成長期以降の急激なモータリゼーションの進展に伴う公共交通の衰退や商業施設の撤退に加えて、少子高齢化、核家族化等の社会情勢変化により、買い物弱者問題が深刻化している。2010年5月には、経済産業省の審議会で「地域生活インフラを支える流通のあり方研究会調査報告書」がまとめられ、その中で全国の買い物弱者数が約600万人程度と推計されている。さらに、2011年3月に同省は各地の買い物支援事例を収集・整理した「買い物弱者応援マニュアル」を作成し、各地の買い物弱者問題の解決の一助としている。しかしながら、それぞれの買い物支援策の選択要因は明らかになっておらず、地域に合った買い物支援策を検討するための資料としては十分とはいえない。そこで、本研究では、地方部の高齢者の買い物行動様式の選択実態と買い物に対する意識について分析し、各種買い物支援策導入検討に資することを目的とする。

2. 対象都市の概要

本研究で対象とする和歌山県日高郡美浜町は、飲食料品小売事業所が少なく、また、スーパーのような食品を総合的に取り扱う店舗が無い状態が継続し、加えて、高齢化率27.0%、高齢者単身世帯12.6%と日高郡内でも比較的高くなっている。また、第5次美浜町長期総合計画策定調査における「美浜町の町づくりに関する町民の評価・ニーズ」では、「商工業」及び「高齢者福祉」の満足度が低く重要度が高い結果となっている。このような状況を背景に、当町では、施策展開として「住民の身近でかつ快適な買い物を可能とする商業環境の形成」が掲げられており、買い物弱者問題の解決が重要課題となっている。

3. 調査の概要

本アンケート調査は、美浜町の60歳以上の住民を対象に、生鮮食料品の買い物行動様式選択の状況や買い物に対する意識等を把握することを目的として、2011年3月に美浜町商工会により町内老人会を通じて実施された（回収数：1104票、回収率：93.5%）。

4. 買い物行動様式選択に関する分析

(1) 買い物行動様式選択の実態

買い物行動様式として「外出」と「移動販売・宅配」に着目し、それぞれについて集計した結果を図-1、図-2に示す。まず、外出についてみると、約80%の人が外出により買い物をしている一方で、約5%の人が移動販売・宅配を選択していることがわかる。次に、外出と移動販売・宅配についてクロス集計したところ、全体の1.5%の人が外出と移動販売・宅配を併用しており、移動販売・宅配のみを利用している人が3%、また買物をしない人が約15%となっている（図-3）。以上のことから、約2割の人が何らかの形で他者に依存していることが見て取れる。

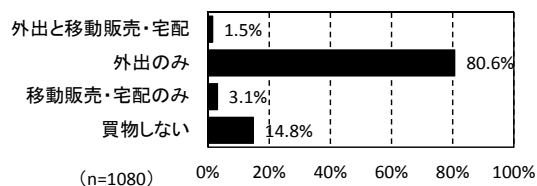
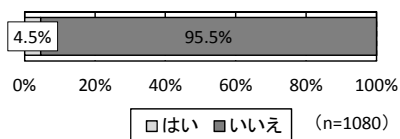
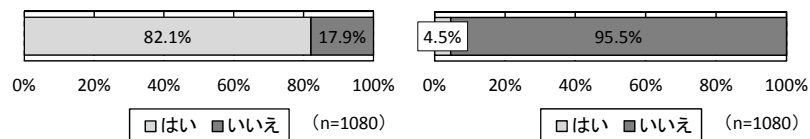


図-1 外出による買い物の有無

図-2 移動販売・宅配の利用状況

図-3 外出と移動販売・宅配の利用状況

(2) 個人属性と買い物行動様式選択の関連分析

ここでは、個人属性と買い物行動様式（外出、移動販売・宅配）の選択との関連性について独立性の検定を行った。表-1は、買い物において外出あるいは移動販売・宅配を選択したサンプルの度数と相対度数、及び独

立性の検定の結果を示したものである。これをみると、年齢、世帯構成、健康状態、運転可否に比較的強い有意性が見られた。また、年齢とその他個人属性（性別と職業を除く）との間に有意性が認められたことから、加齢に伴う身体機能の低下や世帯構成の変化によって、外出による買い物から移動販売・宅配へと移行する傾向が見受けられる。

表-1 個人属性と買い物行動様式選択の関連分析（独立性の検定）

個人属性		外出		検定結果	移動販売・宅配		検定結果	個人属性		外出		検定結果	移動販売・宅配		検定結果
		度数	相対度数							度数	相対度数				
性別	男性	227	0.783	*	5	0.017	*	職業	会社員・公務員	27	0.964		0	0.000	
	女性	458	0.840		29	0.053			自営業	81	0.818		4	0.040	
年齢	60～64 歳	83	0.954	**	0	0.000	**	健康状態	パート・アルバイト	20	0.952	**	0	0.000	**
	65～69 歳	127	0.913		2	0.014			無職	724	0.817		41	0.046	
	70～74 歳	210	0.901		2	0.009			良い	171	0.919		4	0.022	
	75～79 歳	221	0.898		11	0.045			まあ良い	193	0.865		9	0.040	
	80 歳以上	233	0.645		34	0.094			ふつう	295	0.960		10	0.029	
世帯構成	夫婦 2 人暮らし	381	0.878	**	13	0.030	**	運転可否	時々体調を崩す	212	0.746	**	20	0.070	**
	子供(未婚)と同居	132	0.815		5	0.031			寝たり起きたり	11	0.314		5	0.143	
	子供(既婚)と同居	121	0.703		7	0.041			運転する	317	0.908		2	0.006	
	一人暮らし	208	0.813		24	0.094			運転しない	402	0.756		33	0.062	

** : 1%有意 * : 5%有意

5. 外出による買い物行動実態

外出による買い物行動実態を年齢別でみると、加齢とともに外出頻度が低下し、また利用手段は徒歩・自転車、自動車（同乗）、バス・タクシーの分担率が高くなっており、近隣での買い物あるいは他者の移動支援による買い物を選択する傾向にあることがわかる（図-4、図-5）。

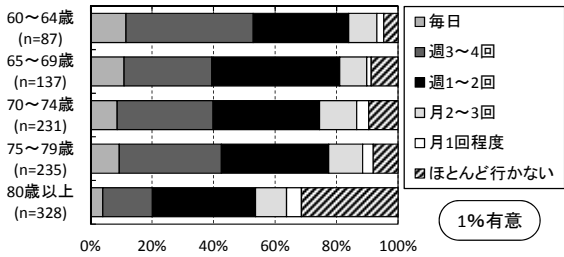


図-4 年齢別買い物頻度

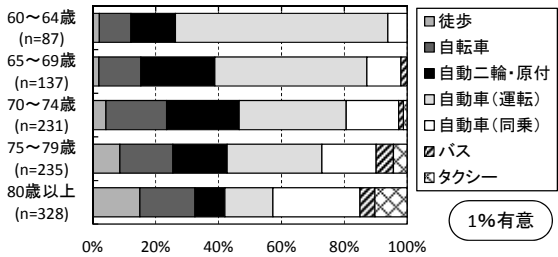


図-4 年齢別買い物手段

6. 買い物に対する意識

各買い物意識について年齢別にみると、加齢に伴い買い物に苦痛を感じつつも、健康維持を考慮して外出を前提とした買い物をしていることがわかる。一方で、80 歳以上になると健康維持の意識が低下し、他者へ買い物を依存することで買い物の苦痛を解消していることが読み取れる（図-6）。

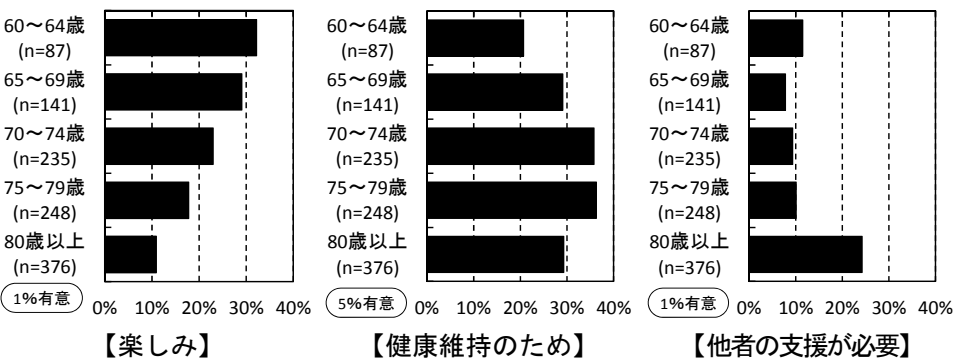


図-6 買い物に対する意識

7. まとめ

本研究では、地方部の高齢者の買い物行動様式の選択実態と買い物に対する意識について分析した。その結果、年齢と買い物行動様式選択との関連性が認められた。また、加齢に伴い買い物に苦痛を感じつつも健康維持のために外出による買い物を選択する一方で、外出支援はもとより、外出を前提としない買い物支援の必要性が高くなることが明らかとなった。